

# 第 27 回院内学習会 だいじょうぶ？人工甘味料

## 安全性問題と環境汚染疑惑が次々に浮上

2024 年 4 月 4 日(木)午後 3 時 30 分～午後 5 時

参議院議員会館 B109 会議室(地下 1 階)

人工甘味料の消費量(摂取量)が、ショ糖換算で約 40 万トンに達している可能性がある。  
一方、ショ糖の消費量は約 177 万トンに減少し、北海道の製糖工場も 8 工場から 7 工場に減少した。

WHO(世界保健機関)が「人工甘味料を推奨しない」とのガイドラインを発表

体重管理や糖尿病等のリスク軽減のために人工甘味料の使用は推奨しない。

長期的な摂取では、死亡率、肥満、2 型糖尿病、心血管疾患、膀胱がんの増加等のリスク

2024 年 3 月 AHA(米国心臓協会)の学会誌に掲載された最新情報(20 万人、約 10 年間追跡調査)

遺伝的要因に関係なく人工甘味料入りの飲料を 1 週間に 2L 以上摂取すると心房細動リスク上昇

2023 年 7 月 Diabetes Care フランスのコホート研究 人口甘味料の摂取で 2 型糖尿病リスク増加

アスパルテーム:1.63 倍、アセスルファムカリウム、1.70 倍、スクラロース:1.34 倍

2022 年 9 月著名な専門誌 Cellc 人工甘味料が腸内菌叢を攪乱し血糖値を上昇させる可能性

2022 年 3 月 Plos Medicine フランスの疫学チーム(10 万人 24 時間食事記録)発がんリスク上昇

アスパルテーム IARC(国際がん研究機関) Group 2B(ヒトに対して発がん性の可能性)に分類

ダイエット清涼飲料水では糖尿病を予防できず、逆に糖尿病リスクを増加させる。(Sakurai M 2014)

司会 松本恵美子(弁護士・薬剤師)

ご出席議員のご紹介とご挨拶 (10 分)

1. 人工甘味料の安全性:新たな知見を踏まえて (40 分)

川西正祐教授(鈴鹿医療科学大学前副学長・薬学部長・大学院研究科長、客員教授  
三重大学名誉教授、化学発がん予防学)

2. 人工甘味料の摂取量と環境汚染:人工甘味料によるリスクの再評価を (25 分)

中村幹雄(元鈴鹿医療科学大学薬学部客員教授、元消費者庁食品表示一元化検討会委員、  
厚生労働省第 8 版添加物公定書検討会委員、日本食品化学学会設立に従事)

質疑 (12 分) 事務局連絡等(3 分) 閉会:17:00

名刺交換会(立食) 地下 1 階食堂 17:10~18:00

定員:78 名(定員にて締切) 定員を超えて受付られないときのみ御連絡いたします。

資料代等(資料代、郵送費、立食等) 久しぶりに名刺交換会(立食)を開催します。

国会議員・国会議員秘書、マスコミ:無料、個人:1,000 円、企業・業界団体等:3,000 円

参議院議員 伊藤孝恵事務所

申込先:特定非営利活動法人 食品安全グローバルネットワーク 中村幹雄

〒532-0011 大阪市淀川区西中島4丁目 2-12 CSビル 3 階

FAX:06-6305-8614 メール:mikio@nakamura.in 携帯:090-3280-4181